

平成24年度病害虫発生予報第5号(8月予報)

＜お知らせ＞ ウリ科野菜を加害するアシビロヘリカメムシに関するコラムがあります(本号11頁参照)。

今月のトピックス

ホオズキカメムシ (ナス科)

学名 : *Acanthocoris sordidus*

オス成虫

腿節

メス成虫

幼虫

卵塊

生態と被害

シマトウガラシに寄生する成虫・幼虫集団

ホオズキカメムシはカメムシ目ヘリカメムシ科に属しており、我が国では本州～南西諸島まで広く分布している。成虫の体長は10-13mm、体色は黒褐色で背面に灰色の粗くて短い毛が密生している。オスはメスを巡る闘争のために発達した腿節を持ち、また腹部がやや窪むことから雌雄が区別できる。本種の卵は20数卵の卵塊として寄主植物の葉裏に産み付けられるが、寄主植物外への産卵を行う場合もある。体が白い粉で覆われている若齢幼虫は強い集合性を示し、また、1匹のオスが複数のメスと集団(ハレム)を作ることから、寄主植物上でしばしば多数の個体が集合している様子が観察される。

本種はトウガラシ、ピーマンなどのナス科、カンショなどのヒルガオ科植物に寄生し、多くの作物の害虫として知られている。加害様式は成幼虫による茎からの吸汁であり、果実を直接加害することはないが、寄生密度が高いと株が萎れる場合がある。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

平成24年8月1日
沖縄県病害虫防除技術センター